

大学発スタートアップ創造ラボ

大学研究者が語る起業ストーリーVol.6

農学でも 大学発スタートアップという 社会実装はアリなのか。

食料問題や環境負荷、未利用資源、土壌の劣化など、私たちの暮らしを取り巻く課題に、農学研究はどのように応えることができるのでしょうか。

シロアリを活用した未利用木材の飼料化・食料化、環境負荷の少ない次世代の食料生産システム、土壌の数値化と科学的な処方提案——。今回は、京都を代表する三大学から、農学・生命環境分野の研究成果の事業化に取り組む3名の研究者をお迎えします。起業の契機や研究成果を社会に届けるまでの道のり、研究者が事業に関わる意義と難しさについて、研究者による起業のリアルを語っていただきます。

研究成果の事業化に関心のある研究者をはじめ、大学発スタートアップ、産学連携、起業支援に携わる皆様のご参加をお待ちしています。

参加無料
ハイブリッド開催



立命館大学生命科学部 教授
株式会社SOFIX 代表取締役

久保 幹 氏

土壌微生物を活用した土壌診断・有機農業研究を専門とし、世界初の土壌分析技術「SOFIX」を開発。2015年に一般社団法人SOFIX農業推進機構、2022年には株式会社SOFIXを設立。土壌中の微生物量や動きを数値化・可視化する技術により、勘や経験に頼らない科学的で再現性の高い有機農業の実現に取り組んでいる。



京都府立大学大学院生命環境科学研究科 特任教授
未来食研究開発センター株式会社 代表取締役社長

増村 威宏 氏

イネ種子（米）の高度利用研究を専門とし、2025年度日本植物バイオテクノロジー学会学術賞を受賞。2022年に大学発スタートアップ「未来食研究開発センター株式会社」を設立。小型イネ「京のゆめ」の栽培システム開発や農業由来の温室効果ガス測定事業など、持続可能な農業の実現に取り組んでいる。



京都大学大学院農学研究科 教授
チームWILFOOD 代表

松浦 健二 氏

シロアリの社会性や木材分解能力を専門とする進化生物学・昆虫学研究者。未利用木材を家畜飼料や食料へ再資源化する循環型食料生産システム「WILFOOD」を開発し、森・虫・家畜・食をつなぐ持続可能なバイオエコノミーの実現に取り組んでいる。現在は研究成果の社会実装を目指し事業化・法人化を進めている。

日付

2026.9.15 (火)

時間

18:15～20:30

18:15-19:50 トークセッション

(研究・取組紹介/ディスカッション/質疑応答)

19:50-20:30 交流会 ★対面会場のみ

場所

オンライン (Zoom)

+

京都経済センター3階 KOIN

<https://open.kyoto/access/>

料金

無料

定員

オンライン：100人

※先着順

対面会場：50人

※申込多数の場合抽選